

また、谷茶・富着・仲泊・山田など、恩納村の南部を中心に「チチ」と「ちちゅー」が併記されていますが、最近の調査によって、「ちちゅー」は使われなくなっている、あるいは使われなくなりつつあることもわかっています。このように同じ「月」を表わす語であっても、恩納村の中でいろいろな語形が使われているのです。

「いなびかり」を表わす語はもっとヴァリエーション豊かです。図2をご覧ください。大きく、日本語の古語「火照り（ほでり）」に由来するホデリ系の語と、「光（ひかり）」の前に「稲（いな）」がついた「いなびかり」に分けられます。このうちホデリ系の語で、後ろの音が融合しているかないか、1音めと2音めそれぞれの音の違いによってさま

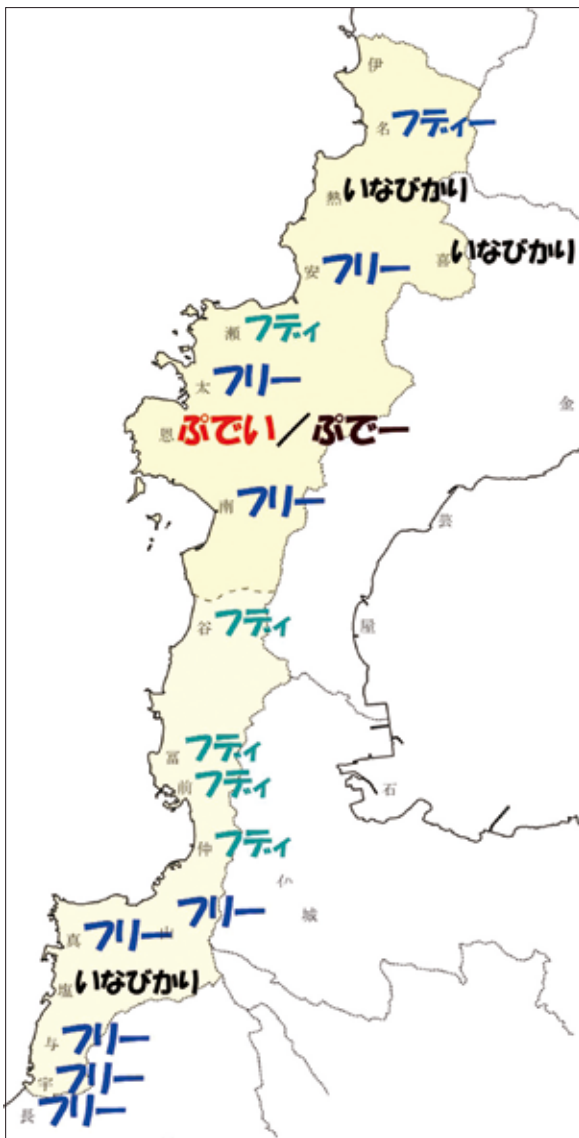


図2 「いなびかり」の言語地図

タイプの語になります。これらの語には後ろに「ユ（夜）」という要素がついているため、語の最後の音がいずれもウ段になっているのが特徴的です。

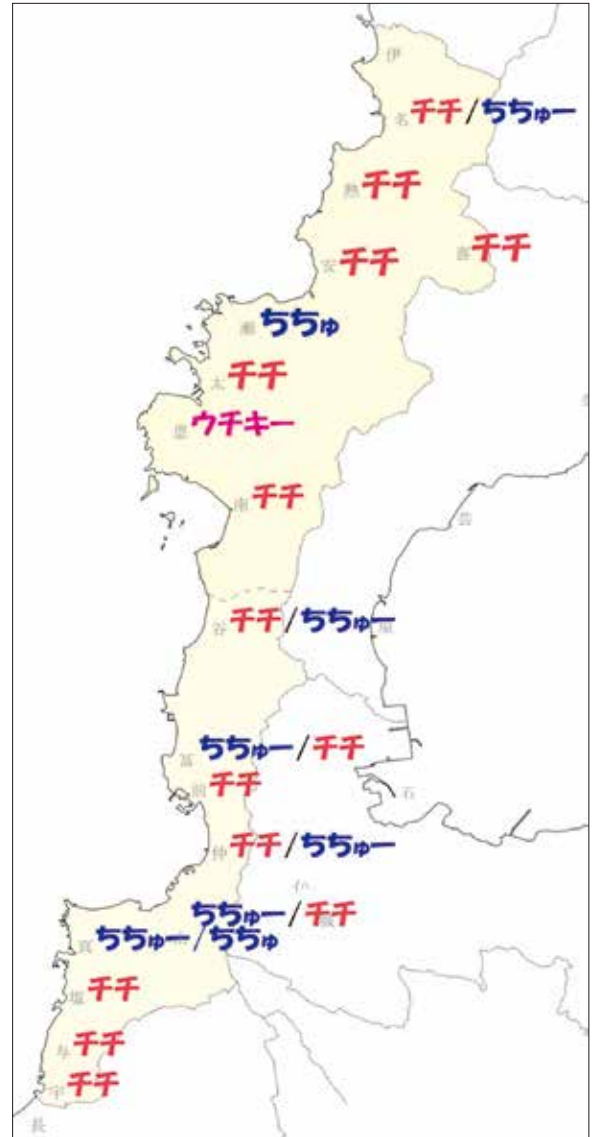


図1 「月」の言語地図

りますが、どうぞ楽しみに待っていてください。

さまざまな語形が現れます。まず北側の地域について、名嘉真は「フデイ」、安富祖、太田、南恩納は「フリー」、瀬良垣は「フデイ」、恩納は「ぶでい/ぶでー」となっています。また、谷茶から仲泊にかけての中央部では「フデイ」、山田から宇加地にかけての南側では「フリー」という語形がそれぞれ使われています。恩納の「ぶでい/ぶでー」は他の形との違いが大きくて特徴的です。

なお、恩納村方言の全ての語に多様な語形がある訳ではありません。例えば「風」を表わす語は、恩納村のいずれの集落でも「カジ」と言います。

紙幅の都合上簡単な説明となりましたが、『言語編』では、恩納村の言葉の特徴がしっかりと伝わるような丁寧かつ分かりやすい記述を心がけています。完成はもう少し先になります。

（沖縄国際大学教授）